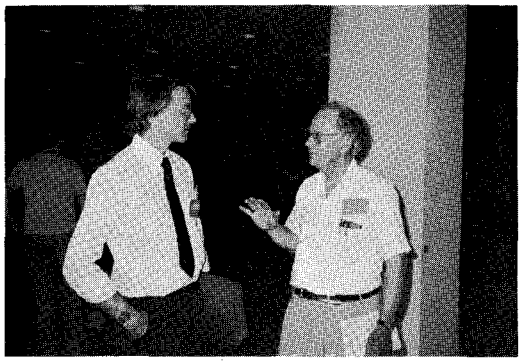

図 8　コロンビアのエルメグリーンとグローニングゲンのブラーウ.

といろいろの人とそれとなく何回も話をしては別れてまた会うことになる．その上に午前と午後のお茶とおやつの時間，毎夕食前にはバドワイザーをはじめ各種のビールやバーボンやスコッチの水割りを飲みながらの雑談を小一時間．毎夕食はぶどう酒を飲みながらのごちそうだったので3日目にもなると皆がアストロノミーもいいがガストロノミーもすばらしいと口をそろえるようになり何時のまにかほとんどの人と知り合いになっていた．

ヴァン・フレック天文台はアプグレン教授にひきいられる小さなグループで，大学院はあっても博士コースはない．この会議は2年前から周到な準備をはじめて小人数の院生と秘書嬢と近辺大学のルー，フィリップ，ファン・アルテナ，等の協力のもとに実現された．後援はIAU の 24 委写真位置天文学，33 委銀河系の構造と力学，37 委星団とアソシェーションから，資金援助はIAU, NSF, パーキン・エルマー，ヴァン・フレック天文台，ウェスタン・コネチカット州立大学，ウェズリヤン大学から得られた．

会議の構成は3部にわかれており，I 近距離星，II 光度関数，III 太陽近傍の速度場と力学，から成っている．前節までにIとIIの招待講演に関連して書いた．IIIの招待講演はビンネイで，第三積分を用いた銀河系モデルを調べることによって，銀河系の形成過程の時間尺度あるいは重力収縮前の原始銀河系の形状について情報が得られると説いた．

個々の講演についてはこの小文ではふれないが，ヒッパルコスについての議論やポスター・ペーパーそれぞれについての質疑応答もあった．私も講演とポスター・ペーパーをそれぞれひとつずつ出し，両方とも確かな手答えがあったのはうれしかった．最後に座長の名前を列挙しておわりにしたい．A. Upgren, A. Murray, D. Philip, S. van den Bergh, I. King, M. Schmidt, R. Wielen という方々が，各セッションを司会した．

日本天文学会 1983 年度秋季年会記事

1983 年秋季年会は茨城県水戸市の市民会館において，A，B の2会場で10月12日（水）～14日（金）の3日間にわたって開催された．講演数は会場 A 99，会場 B 98，計 197，出席者数約 320 名で，各セッションの座長は次の方々にお願いした．

		会場 A	会場 B
12 日	午前	石田蘆一	石田五郎
		高瀬文志郎	山下泰正
	午後	上西啓祐	甲斐敬三
		会津晃	赤羽賢司
13 日	午前	中野武宣	杉本大一郎
		森本雅樹	浜田哲夫
	午後	須田和男	海野和三郎
		若生康二郎	高倉達雄
14 日	午前	青木信仰	河鰭公昭
		加藤正二	平山淳
	午後	小暮智一	神野光男
		松岡勝	田鍋浩義

会期中，12 日昼に内地留学奨学金選考委員会，13 日夜に懇親会，14 日昼に理事会が開かれた．

学会だより

昭和 59 年度

文部省科学研究費補助金配分審査委員候補者

日本学術会議研究費問題委員会より標記の件について推薦の依頼がありましたので，本学会として評議員の書面投票により下記の方々を推薦いたしました．

第1段審査委員候補者：　杉本大一郎
池内　了
鰹目信三

第2段審査委員候補者：　海野和三郎
早川幸男

なお，現在の第1段審査委員は，藤本光昭，奥田治之，小暮智一の3氏で，第2段審査委員は古在由秀氏ですが，藤本光昭，奥田治之，古在由秀の3氏が，昭和 58 年度で任期満了となります．

内地留学奨学金選考委員会

年会中に開かれた上記委員会は，今年度は申請者がいなかったので，奨学金の運用方法および選考についての基本的な討議を行った．